

平成30年度生活支援体制整備事業 第2回 第1層協議体 会議録

次第	1 開会 2 今年度の取組及び平成31年度の取組予定について 3 アンケート調査結果等を踏まえた今後の進め方について 【グループワーク】 4 発表 5 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業の愛称について 6 その他 7 閉会
日時	平成31年3月28日（木）16時00分～17時30分
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎6階 集会室2
出席者氏名	菅野 京子 矢島 啓志 杉田 司 高田 麗 亀山 計次 習田 祐子 阿部 洋子 中戸川 正 林 正明 篠原 徳守 柏崎 周一 小山 紳一郎 吉川 美香 田淵 明子 吉川 宗孝 藤尾 直史
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人

1 開会

○（茅ヶ崎市福祉部 熊澤 克彦 部長）

本日は、年度末の何かとご多用な時期にもかかわらず、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 第2回 第1層協議体にご出席いただき誠にありがとうございます。前回開催から半年余り経過をしておりますが、この間、皆様から頂いたご意見を踏まえ、アンケート調査や社会資源の把握に取り組んでまいりました。後ほど、地域支え合い推進員である担当職員より説明がありますが、アンケートで得られた結果を今後どのような活動に活かしていくかなどについてご意見を頂ければ幸いです。

さて、超高齢化社会という時代の中で、本市の高齢者人口につきましても年々増加しております。直近のデータでは、本年3月1日現在の65歳以上の高齢者数は63,725人であり、高齢化率は26.13%となります。また、75歳以上の後期高齢者の人口も増加

しており、同じく本年3月1日現在で32,569人、率としては13.35%となります。高齢化の流れは今後も続くと思われ、それに伴い、地域の中で困っている高齢者に対しての様々な地域の支え合いの取組も今まで以上に必要になってくるものと考えます。

こうした地域の支え合いの取組は、まずは地域の特性や課題の把握が重要となりますが、地区ごとそれぞれ地域特性や課題等が違っている部分もあろうかと思えます。

今回、市全体で調査を行いました。速報版という事ではありますが、地区ごとの基本集計結果を見ましたところ、地区ごとに傾向が違ふという事も分かりました。今後は、この調査結果から見えてくる傾向を踏まえ、地区ごとに、より詳細な調査等を行うということも重要ではないかと思えます。

本日はよろしく申し上げます。

2 今年度の取組及び平成31年度の取組予定について

- （第1層地域支え合い推進員（茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課 課長補佐）吉川 宗孝）
資料1に基づき説明を行った。

3 アンケート調査結果等を踏まえた今後の進め方について【グループワーク】

- （第1層地域支え合い推進員（茅ヶ崎市社会福祉協議会）藤尾 直史）
資料2に基づき説明を行った。その後、4つのグループに分かれ、資料2や資料3を踏まえつつ、グループワークを実施した。

4 発表

- （1グループ）
 - ・今回のアンケート調査のテーマでもある「移動」において、最も難しい問題でありながらも考えなければならないことは「付き添い」である。アンケートからは、シルバーカーを使用している方や、バスに乗るまでに苦勞する方など付き添いを必要とする高齢者への対応の重要性を感じた。
 - ・サロンの情報公開は良い試みである。また、サロンには誰でも参加できるオープンなサロンと固定メンバーで構成されるクローズなサロンが存在するが、今後はオープンなサロンが求められると思う。
 - ・サロンは運営するにあたって担い手や、内容を検討することが必要だが、あまり難しいことは考えずに楽しく活動することが大切である。
 - ・これからもサロンの数は増えていくことが望ましい。元気な人は自分で目的をもって動くことができる一方で、独居の方や認知症が進行した方は自ら外出することが難し

いことがある。そこで、誰かが多少強引にでもサロンに連れていき、楽しさを知ってもらえれば良いと思う。一緒にサロンまで付き添いで来て、帰るころに連絡をして迎えに来てもらうという利用者も多く存在する。

○（2グループ）

- ・サロンの展開を検討する際は、要介護要支援認定者よりも、要介護要支援状態になってしまうおそれがある方や、普段の生活で周囲との関わりが無い方について考えることが大切である。
- ・デイサービス等の利用者が多い地域はサロンが少ない傾向があるのではないか。サロンは今後ケアマネジャーやボランティアセンターとの連携が必要になると思う。
- ・現在、市内ではサロンを増やすための取り組みが行われている。どこも基本的にターゲットとする利用者の徒歩5分圏内にサロンを作りたいと考えているようだが、サロンに関する取り組みで課題になるのはやはり担い手の確保である。そうしたサロンを取り巻く状況はあるものの、まずはサロンを利用してもらうための具体的な取り組みが必要である。
- ・市は今回調査した市域全体の傾向と各地区の特性を比較しながら、各地域で取り組むべきことを確認していく必要がある。加えて、各地域の活動の主体が情報共有をすることも大切である。

○（3グループ）

- ・地域づくりは、住んでいる人たちの気持ちを繋ぐことができないと上手くいかない。
- ・アンケートの活用については、茅ヶ崎市全体の傾向が分かっても、地域での活動には結びつかないため、地域別の詳しいデータが必要であるという意見があった。
- ・サロンの立ち上げなどが地域によってかなり温度差がある。
- ・参加対象を地区で限定しているサロンがある。参加対象の地区を限定し過ぎてしまうと道一本挟むだけで参加できないということが起こる。
- ・サロンは空き家を利用するなどして近場に作ることが重要である。サロンまでの距離が遠いと、引きこもりに繋がる。
- ・サロンの活動内容が分かる広報などを出すことで参加者の増加が見込まれるという意見が挙がった。特に、高齢者には文書や広告よりもクチコミが効果的である。具体的な活動内容がクチコミで広まれば、参加者は増加すると思う。
- ・今後ヘルパーが不足していくことを見据え、買い物のお手伝いや話し相手になることなど、地域で支援できそうなことは地域で行うことができると良いと思う。

○（4グループ）

- ・高齢者の生活の課題として防災が挙げられる。特に独居の男性は普段から外に出てくれない傾向があるため、災害時は不安である。しかし、そうした方々を外に連れ出すための策を考えることは、防災だけでなく居場所づくりにも繋がると思う。
- ・外出を促すために、男性であればたとえば音楽、それも演歌だけではなくビートルズなどのロックなものや、コーヒーや麻雀を楽しめる場所の情報を提供すると良いのではないか。
- ・現在収集しているサロンの情報は、福祉寄りになっていると感じる。福祉に偏らないように、例えば地域支え合い推進員が、地域の情報をよく知っている人に話を聞きに行くなど、収集方法を工夫した方が良いと思う。収集した情報は、全て開示にするのではなく、開示すべきものとそうでないものを分類する必要がある。

5 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業の愛称について

○（事務局）

事務局より資料4に基づき説明を行った。

6 その他

○（事務局）

事務局より事務連絡を行った。

7 閉会

○（茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課 田淵 明子 介護保険担当課長）

各議題について多くのご意見を頂きましてありがとうございました。

本日の皆様からのご意見を基に、来年度も引き続き生活支援体制整備事業に取り組んでまいります。

本日はお忙しい中、長時間にわたってありがとうございました。